

# CCBA 合格体験記

2011年11月26日 CCBA 日本語ペーパー試験実施分

株式会社日立ソリューションズ 谷 寿人

## 1 日立ソリューションズの超上流工程への取り組み

日立ソリューションズでは、超上流対応力強化のために、超上流技術の整備と対応人財の育成を進めています。私自身は、超上流プロセスエンジニアリングセンタという組織で、この超上流施策の推進と現場をコンサルテーションする立場にいます。

今回、人財育成施策の一環として、全社で CCBA 資格の取得を推進することになりました。CCBA 資格を取得することで、当社の超上流スキルレベルをお客様に客観的に証明できます。そこで、今回は 10 名前後を社内から選抜して、CCBA の受験に向けて集中的に準備し、初の CCBA 認定獲得を目指すことになりました。私は、選抜者の一人として超上流プロセスエンジニアリングセンタから選ばれました。

## 2 受験準備

今回は会社の施策として受験するため、EEP™である KB マネジメント社に全般にわたってサポートしていただきました。具体的なサポート内容を、次に示します。

- 受験申請手続きのサポート
- CDU 取得のための認定コース実施
- 試験対策講座の実施

とくに受験申請手続きでは、手続きガイドや業務経験の集計表を用意していただくことで、順調に手続きが進み、特にトラブルなく受験資格を得ることができました。

申し込み時にポイントとなるのは、やはり推薦者による推薦状の用意です。私の場合、幸いなことに推薦者が身近だったため、入力上の注意点などを確認することができましたが、推薦者が遠方な場合はあらかじめ手順を説明する必要があると思います。

7月下旬から手続きを始め、8月初旬に受験資格を得ることができました。

## 3 学習期間

受験資格を得てから、受験までに約 3 か月の期間がありました。それなりに余裕を持って学習の計画を立てられそうです。

他のベンダー試験の学習では、テキストを読んで演習問題を何度も解くなど、ある程度方針は決まっていますが、なにぶん今回の試験はよいテキストも演習問題もほとんどない状態でした。仕方がないので、次の方針でしばらくは学習を続けました。

- ひたすら BABOK®ガイドを読み込む

- EEP™作成の知識エリアごとの演習問題を解く

しかし、これでは飽きてきます。そんな時に、『CBAP/CCBA ビジネスアナリシス認定 スタディガイド』という本が出るということを見つけましたので、さっそく購入してこれを中心に学習することにしました。1日に最低1タスク分のセクションを読み、演習問題を解いていきました。1日分の時間は短いですが、約2か月間、だいたい毎日続けていきました。

受験日の1か月ほど前に、EEP™作成の模擬試験で確認したところ、70%程度の正答率になりました。このくらいであれば、間違ったところを重点的に覚えていけば十分に合格できると安心しましたが、学習のペースを落とさずに演習問題を進めていきました。

#### 4 受験

今回の試験は1度しか実施されないペーパー試験なので、参考になることは少ないかもしれませんが、気が付いたことを書きます。

試験を厳格に実施する必要があるため、会場では持ち込む物などに様々な制限がありました。

問題文や選択肢はすべて日本語化されていますが、原文も併記されています。詳しくない人が翻訳した文にありがちな、訳しすぎや意味不明な文はほとんど見当たらず、とても驚きました。

最初のほうに出題される問題は、覚えている知識だけでは解けず少し考える必要がありました。このような問題が150問もあるのかと思うと、若干うんざりしてきました。そのような問題ははじめの1割程度で、残りの大半は覚えておけば対応できるものばかりでした。

90分もかからずに150問を解けたので、もう一度見直しました。2時間程度でだいたいできることはし尽くしたので、途中で退席しました。

#### 5 おわりに

おそらく大丈夫だろうという根拠のない自信はありましたが、それでも連絡が来るまで心配でした。IIBAからメールが届いたのは、ちょうど年末年始の期間だったので、休み明けにメールを確認してようやく安心できました。

同時に受験したメンバーも約半分の人が合格し、当社は国内ではCCBA合格人数がトップレベルのSIベンダーとなり、超上流対応力の強さをアピールできるようになりました。当社では、更なる強化のため、今年度以降も引き続きCCBA®資格取得に取り組んでいます。

CCBA試験のために学習したBABOK®の知識は、体系的にまとめられており、個人の経験に依存することが少ないため、超上流対応プロセスの検討や体系化など仕事を進めるうえでとても参考になっています。

受験することが決まってからの数か月間、職場の方々やKBマネジメント社の清水氏には、様々な面でサポートしていただきました。みなさまのご支援でCCBA資格を取得できたことを深く感謝し、今後も実務でBABOK®の知識とCCBA資格を活用できるようがんばっていきたいと思います。

以上